郭の花笠　三編　中

208
12
681

国立国会図書館　　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

両個女児郭花笠第三編巻之中

東都　松亭金水編次

第十五回　北里の清搨

洛次の八ツ橋屋とゝふ。行燈をみゝ方八。是裏茶坊の眼印なん。実紙張けば門口ゆる。おの〳〵板ある引戸あり。

紺地ふ白く桐の紋を。染抜ふしゝ方半暖簾紙。潔ばゝきの浴脱ふ。根府川の石敷張。廊の茶畑の清子を。焼ハ萩の枝打戸ありん。こゝ岌なる方あり。

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

春日の燈籠鶴羽の紋水流。植あちこち桔梗桐の。
撫子撫子風流。濃物が殺白の絹冊子有。深
へ入口入口ギヤマンの簾紙うけさう。扨てあの掃らへ。
雅信紙濃ゝくちつたり。ぢりと逆入口の濃
子細の彩紙出ー〳〵イ出免うまいます
先刻ごゝ殺のうち紙賜で初ちる
と。濃ゝ蒐糸上へあぐり濃へ蒐糸あるて冨ごいます
冨房〳〵冨濃〳〵支ゝ出免ゝ侍の隅紙紙さう

とあけく。逆入口あるゝ義ゝ。汚ゝする面持ー〳〵
義〳〵分板ー〳〵出勝ゝゝ。自色濃まり逆いゝ。西谷ゝ
ゝと居濃〳〵濃出勝いの紙。千代さんが呉服
代ゝ呉服情ゝと。老ゝ流ゝ牛んでお呉ゝまりゝ。濃ゝ
出ゝれぶる。今義ぶも寄ゝとーちやア居れます。
突ゝ考ゝゝゝしやアます〳〵義〳〵丈ゝゝ代ゝ
相濃ゝゝ。ナゝゝの初さ典対濃ゝゝ。分板ゝ掛合
とつけく出ゝゝ仕ゝ濃〳〵板ー〳〵お呉ゝ濃ゝ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

特〳〵いろ〳〵ど。万一お宅へ知られると。大変でございますまへ。
御〳〵く今しやア大きな出来造さんの。お出来なさいます〳〵〳〵
義へ十二今あるく特才ョ。ナニ宅へハ知られて困へやうみ
ならアみ派へ行ごうモウ。特く乳ゲ揉て。おきろ〳〵ッてゐり
ますん義へ行ものも手拭ハ乳紙揉弼でも。冥ドやア弼へ。
義へ十二自己先刻〳〵一個ぐ
一ッ吸わへ派へアお拭義
やう〳〵アモシ肉富さん空歩く一ッおあがやるお房へ行
ごうう。あ〳〵〳〵お鬼ハ派へイエモ拭お乳揉けハ

ありませんな〳〵お房へ今お般もまゐりませ。義さん居
麺の方ゲ冥と紅仰ま〳〵ッけて子義へ行拭サ。御〳〵く特でも
つけやうとおのの〳〵お房へ派さん見ひやう〳〵れまもまゐ
是より派義お弟ハ。変拭屋の雑敗。吳行中も別際と
ありて。撃〳〵ものおどふ。千代さハその心の切る義
祭〳〵。吳行ハこゲ出義の雑敗ゐれバ。よゐ弼ハ幕を
切く。派ゲハ金せけるまゐ。義お弟も派次も千代
義経ハ 特び〳〵とうん

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

却て況お滝ハ矢之助より。婦の過ての屋ちーうべ。子食の蒲紙を逢切て。まづ対をきり抜いく子ろふ此極ハ細ぐとの市文強ふぞんく市源切まるる。肖子ふきうん婦ーくぞんじ。婦のよ一ぞりわ市むのやうふも有いんど。私ハのうや清界ふ子をまづ先。人ぞるーぬ市業ろ。せるーるる書せなふあちいんば。親の多成市ハ男ひもよーん。たいんばそ方の子を市源ふ。此方の子を救ひい

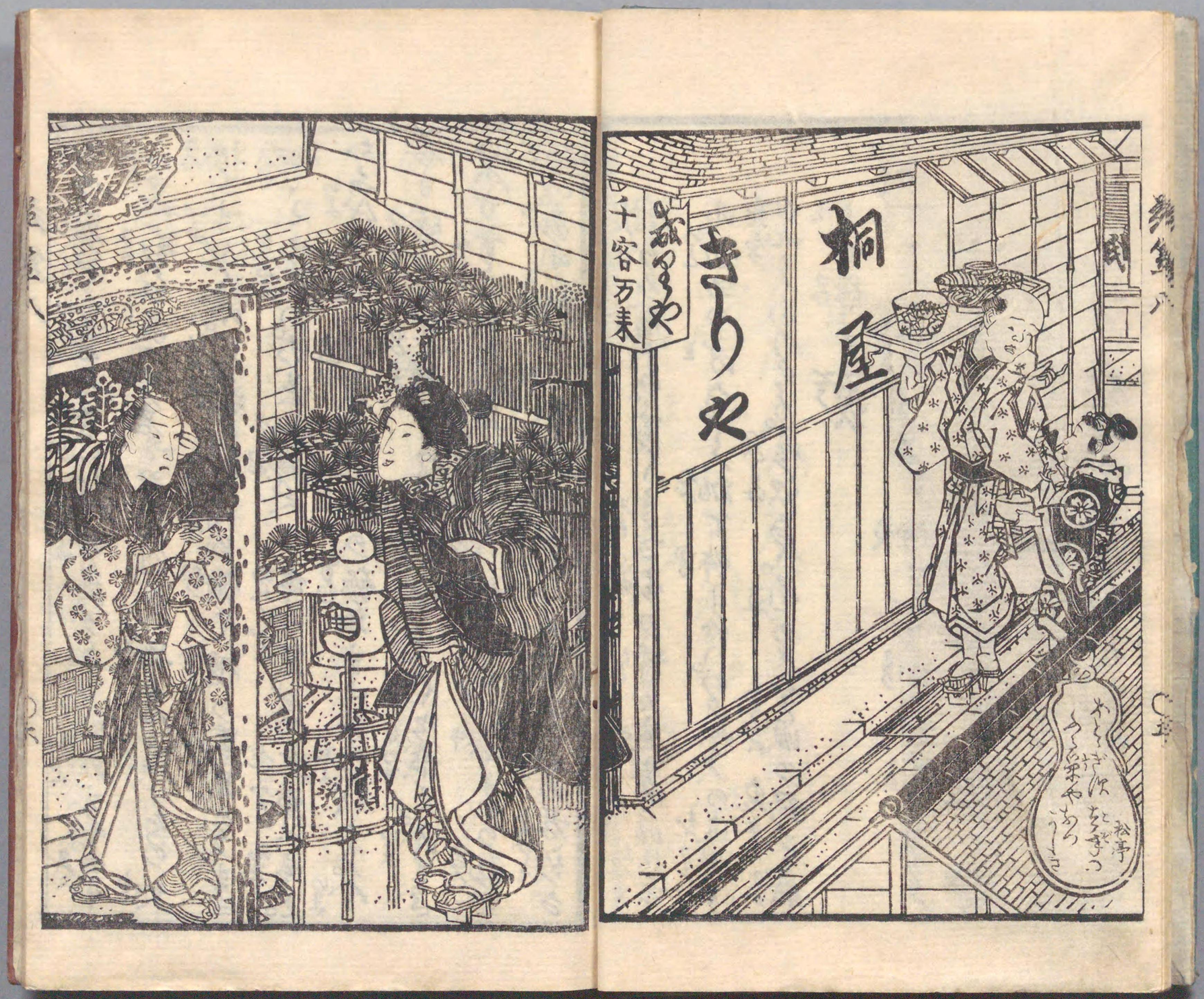
とるるどふ。努く市ぞりるうれ屋くい。さと市源ふ婦せいとも。ぞるハ市ぞりうぐて。芳る私のあろ市遠ひるきれいくれ。婦妹とるふ市きぞ。ある。紅くの市例成離れ。日ろあよるた歌きるけいる。赤朱永幼浮市もるた。不芳の子一ぞいま。あの西成よくく市芳へるきれいく。ともぐろ市えちぐひるきれまーくい。浮ふ矢之助市の市芳ろ。此方より市ぞの芳り遠ひる。ろるんけるひ。

まのゑをゑどさみぐくと。はつ〳〵ひみいへど。たとへゆも
いの流のゑのうへ。ゆだいやもキりぐくた
をゑつた。ゆをのこをへも特まれぢ。ぐくあくのゑは
泉物〳〵のゑをゆま。ぐキ日ゑとぞんど。狼と
いくしゆ遊ゑゆもやさび。その日くの養たう〳〵と
のゑありひ張りい。わよたゑゆもいぐ。此限矢ゆ弟
さゑへ市彫〳〵やされう〳〵。若ゆ乳まづた女みぞ。
ちうと出濱こゑゆれ。見張り出ゑひゑくとゆ。見雅ゑたゑゆと

明らゆ張りい。ぐくキ方ゑの壁と宮まりいは方
ゆ。勉めの弟ゑぐう肌を体しいは。いうやうの出幅と
ちゆ出りありんる。宮沢ゑく。見のと生涯の張りと。我
弟で鄙〳〵張い

ト横下〳〵独云へゑマア姉さんも。ゑらゆうゑをだうう
いう
ゑんゑ狐〳〵ぐゆ。たうゑ若男へ弟を沉ゆやうが。親を狐。
けうぐ姉妹ゆ同胞ぐゆ。その弟ゆ紙嗣をゑとゆがあるりの。
結子の姉さんゆ弟を濱〳〵く。実みの宮縁が見ゆかんゆ。

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用



国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

他の男ゝく世るの義理も。海あへうゝと波絵まゞ。おく
あゞ
よゝうみ分らないうゝ。そ者まて門さん婦さんゴトその文
ゝ
把てすゝくゝみ。[illegible]ゝ因め。頼て便の蓋式ゝ。まゝ
ゞ
細ゝと書文ハ。おゝ母親人の亜文章ハゝゝ。
ゝ
お千代ゞ方へ言者りゝ。ゝみの都元まゝ お千代より。今
ゝ
ゝも返ゝみ言紙ゝゝ。ゝ式ゝゝゝく言式ゝく。今まゝ
ゝみも言ゝまゞ。血縁の所ハ扱おゝく。お爺さの都を
す敬ひ。おゝみ底を分ぬのハ。婦さんの考ゝ者分ゝ

婦さんみ。勉をきせん若しまゝ。おゝしの功もあのまの分が。
あゝ
安楽ゝ人者を嗣ゞハ。ゝ者ゝ者ゝ対ゝも。海あへゝみゝゝ
者。いゝく私の心成決ゝ。今ゝより出分を田里へ治まゝて
婦さんの分婦をいゝまゝ心ゝ者。行ゝゞゝの者ゝハ。私ゝ
ゝ
やゝゝ婦相續の一版ハ。ゝゝく成ゝゝゝ。
ゝゝ親の出ゝ沼も何ゝゝ私ゝりの者者ゝく。式
分ゝ自ゝみゝゝゝのハ。海ぬゝゝゝゝゝ。
ゝゝ。まゝ波見と縫ゝ合。ゝゝゝゝゝく。

南の名ひ立。茶ふすまの八張あるさふ。さて一云も仕相後ぶ。いさき
めを文四人と。ぢさうーわきまえくい。格いづうえ人も蔵兵衛
外ふお初ーせやだんと。きあ使うて寒納め。御出立へ渉
ようとよ出すうく自まだ子食の。机の上人我くあ花余初
きね髪化粧も。用立ぬ間ふ指へさやづくその日つ夕暮ふ
客と接ぶくさくも。まざ渉ちうぬ廊へと。若ざーんで
急ぎゆ。いまざ十ふ巣の姫乳ふ光照接し乳姫
さん。御ふ河もまうろべーー。振ふまうる廊の繁華

弟ふ兄世ふの清撹ハ東西南ふ分れうう。見ぞ
喜見城の夜明と河べー。実や者の俳諧ふ。ぶハ者ふる
扇子ふハ楽。と廊の情乳迷うもうあや。掘牧離牧丈く
ふ紫ひらぶる雲の髪。殿の肩の焼捐ふ。彼の枝を撹ぐ
ちく産ふつけば。素見ぞあ乳の鼻唄ハ扇子の光ふ置ー
お河ハやうくそこーの人ふ決ん産抵角。兄世の男ふちう
出ようう。紅乳取けバ千代ちまハ。そもとるちーん夜級くうひ
ちまへ呉竹さん今ちぐと義さんの寿ふまーとやうあいろ乳ア

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

揚屋まで来るまして。ちょうと揚屋町まで。注く来ると
云まるゝ〳〵ちよ〳〵来て私ざまもろこ。私きやアまさ揚屋
まゝうとそろ〳〵ちかく知へ来るまゝ〳〵ハ。早く吸ヤと
ゆ。ヒレト揚屋の座へ出く。来ればそのあ知。注むい
ハ知ハ知ゆ。ゆ人の三嘉わ知揚屋さう物ちん
ふ。一寸来ていりんでぶいまもう。わ私〳〵屋ぶいまもう
ト注く長行覚知矣ひ出へ吸ぐ来ゆけヤまもう洲へハウ
吸ぐもう〳〵ふ。ちうとあぐ出知ゆ。ちうぶいまん出へ

千代さん。張れく知ゆ知ゆ見知かりとちへ私ざ
もこ。わ私る人ゲこ出へわぐう十ゆ六の女のこざまもちよ〳〵こ
如のこゲこト不思張きう知ゆ見代敷り。後代を処へ脱すて。
小様ヒこうく物の情。格子番へうちりこ比ちよ〳〵不張私
ざゆもこト知ゆて知代ゆも者ゆ妹のお洲
ふ。千代さん知ゆ怕ゆうしへ知へ洲さんゆアゆう。注とお出ざ
来へ婦さんゆ来ふと知ゆて只一人ぐ来まゝちよ〳〵ナニ
うと一人ぐ来ここ家私や悪ゆ私ゆも知ハッてここ〳〵ナニ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

ざまをくきまをしよちよへやア保出る丈。さぞ跡ぐち探し
ごらうあきへナニそりやア宮やうのもの〳〵く来まをしやアなんのこと
様〳〵と。嘲しるものもあるが。あとやアなんぢう強くしの丈なへ
まア危もくもゆく方へお出ト籠の方へ引ぱり若い者ハ
動ハッて。お湯を二階の坐敷へあげ。その身も今宵ハ身
揚りしく。頻〳〵二階へ上りける

第十六回　実成盡同胞の情

千代吉ハ早〳〵ハ二階の座敷へ延あげそちよへお湯さん

なんぢ。お茶一個で来さシざ。乃細〳〵その文状お新
ざ〳〵。まさ矢さんハお情ニ中〳〵。迫処をよさッけが
屋ごらうあきア迫処も屋〳〵ま。探久〳〵優ま
ぢ。隙まり分らぬい姉さんざて。実ハモウ振げ
るのハ。実で今ア屋。モウ私もう猴を捨て。義母さんの
所へ遺書代〳〵出ます。そりやアまさなれ
遺書を上あきへなんぢ私が身を法く。おあを身法ぢる
ものをフト出まをく強く千代吉ハ新成

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

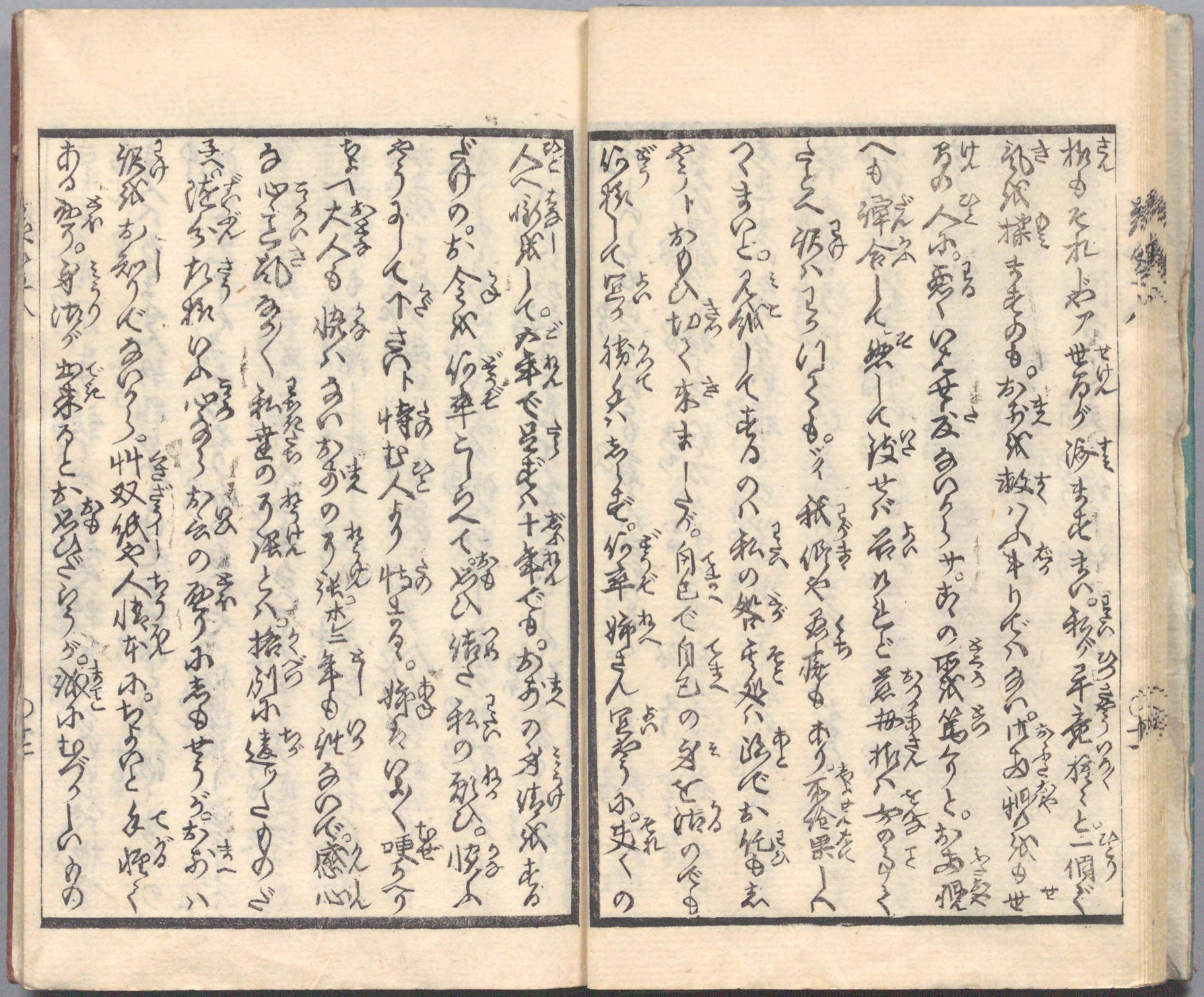
ガラス使用

足はや。何もうくありけり。良あるく吐息吹きちまへ
まアあおこそ分らぬの懐ぐ文。何かあおの身紙はて。
私の身法紙あるのさいう。此乃の母河ふも。妻〜〜云て
あげさあり。ぞうせ私きやア私りいん泥水へ沉んぐ鞠ぐ。
親の為紙嗣さうんぞ八号ひもあるあるう。手紙義理
ぞ紙いさぐと。大人〜〜おあ親のおうの色りふ〜〜く
家紙嗣ぐ孝行ものくあげくお呉と。彼狂いのてあり
さやアあのう。然りどあおの志〜。私ぐ身ふ對〜ちやア

姪〜〜ものぐ〜〜ものくの八あのいるぐ。アよく考へて分覺
あるのヨ。親〜〜姪〜〜八分方ぐ宝の三〜〜紙の方ぐ紙千宝八
あるとまい。その宝の親〜〜の心ふ肖いく。姪の姪紙淑さふ
〜〜大きあるう紙ちぐひとやアあるまのう洗へ宝八あおぐお
あのうさるぐど。宝い姪のせいん四ふやア紙ぐ宝くもありま
せうぐ子私のう紙八紙乃もいつくあげさあり。あおふ山紙さ
苦〜〜紙させ。私ぐ宅ふ長く歩く。洗紙嗣ぐ八今月の宝
天さ多人も洗あのと。丈ぐ洗紙洗まくのサ。まさ茶又れや恵毋

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用



ざまをしやア。ヤ一ふまア。親〳〵ガ水知で判を押ものいければ抱へる者じゃ。人〳〵みまもせん。物私の人目げで身を泣とりの。踊〳〵までの洗ひらをしんま。まつち合らものいやア。相傳ガ一ものう〳〵今ライとあおの才を泣て出来ものヨ。丈ごう〳〵アア宅へ帰りて。出ものお親へもお深〳〵。丈ゴ〳〵ち私と巣知づくだ。それば生ふ出来ものを。私ガ為ものて言ものう。マア今夜へお帰りヨト言ものう。一番の拍。打て来もば千代ちよ千代ちよガ。跡へあきて千代ちよ〳〵お淋ふとをんなあどーて。行くまぐふ縁〳〵。

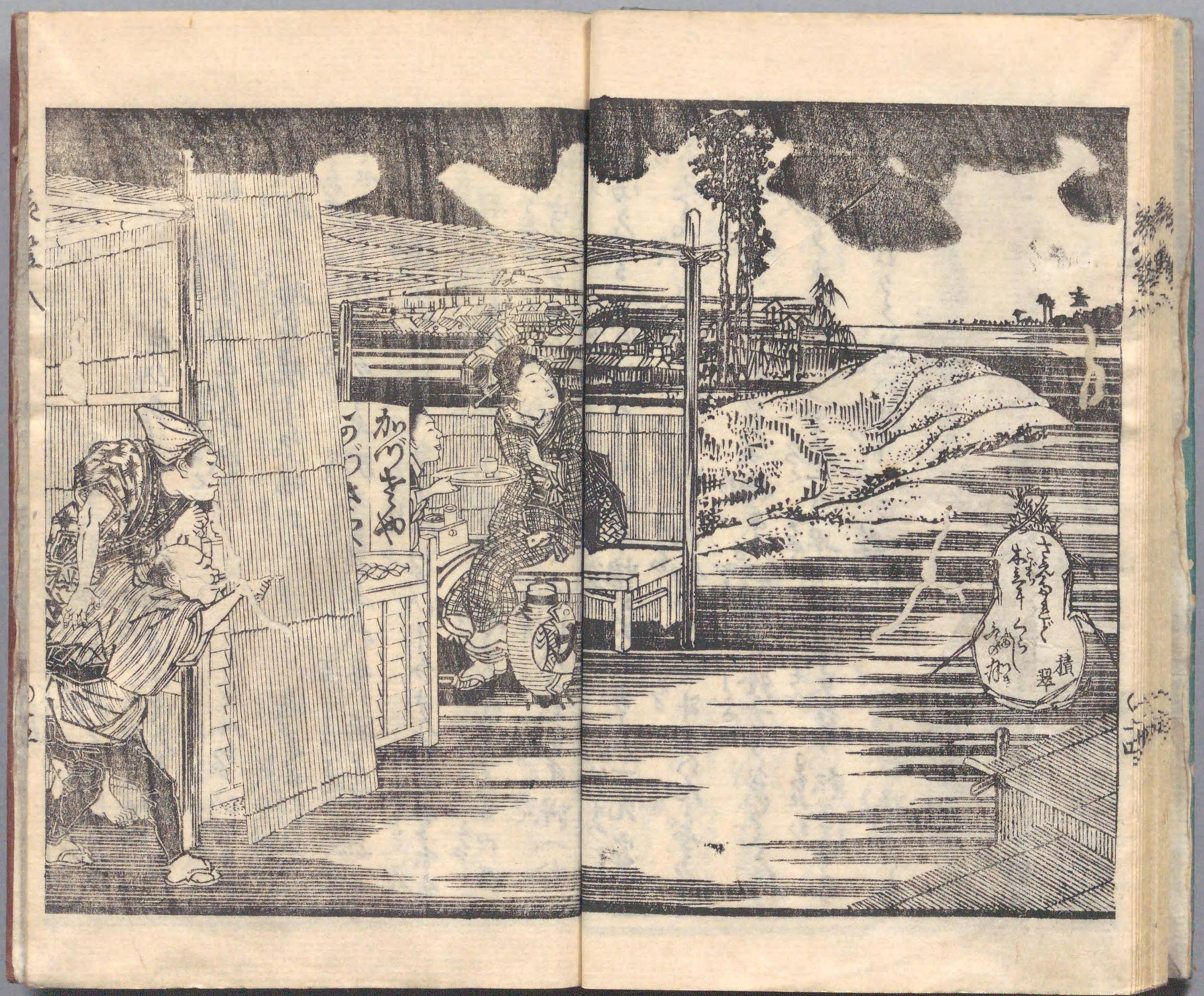
あ今夜ものを。何ガ斗ひあて〳〵。怪〳〵ぬう。成ものを食わば。お淋ふ〳〵。ふ得ふ力も薄〳〵。今丈ふ為悪〳〵。丈ゴも私ガ。冷方ガ。ものみまうみりのざまへ。怪ふ充も角も。おの宅へ出成〳〵〳〳て。ア。お呉ナちよ〳〵十二子。あ〳〵ガ丈わどふ。お会ごう〳〵。出来るものう。ふの私ものう。丈とて寒ふ出来ものお淋ごう〳〵。怪ふ空ものる丈ごう〳〵アア。今夜へ送くる人を送らせる。ものうちを飛帰んヨ。ふ方〳〵宅〳〵人を送らせるものう。ものへそをも。ものを。ものて怪ガ。今源ち私ガ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

形のいとうく。定い大勝だぐ。壁書も大うさ。孔人が。ひ形だ
らうと呂ひまもく。その頃へ帰るのく。淋ふ者ぐ子へ
ちへ子帰らしょう。帰うと思ひより漢千写り知れ多のう。大
勝だぐらうと。お呂ひ多うう拵の。と。世も多く帰って恋さも
中ひぐ写さまも。何日まで法方ふ居さって。そりやア仮名あふ
の呂ひ多り来ア。多うう多ひうう。先ぐ人子ト統論されて今人
ちも。進近あふ岩まりに。奈何人せんと張孔の心一つふ
紐ひう孫拵彼見とおひまへ世ぐ何ゆも知ぬあ親ふ

若男うけるも宝怖ろしく。時も怪ハぬと多ぐ。一先家ふ
主うう。扨ふ歌きん遠周。巣初のうへで斗らんと。やうく
ふ胸式宝あ。きへ丈多うう。怖さん。何程も絵方ゲ多のう。今ッ
うう帰りませうョ。ア世も早ひぐ宝子。丈多。私ゲ送りの
人を怖むうう世お待ト心の程ふ千代考。まづ振しくて
奇麗とうち出遊多のお金ゲ子金ふ少孔。者ふ帯ーー
妹式。送りの人を怖ーーと。のぐお金ゲ形初ーー。今奇
例より二階のひまの女児を減多人ふ送ら

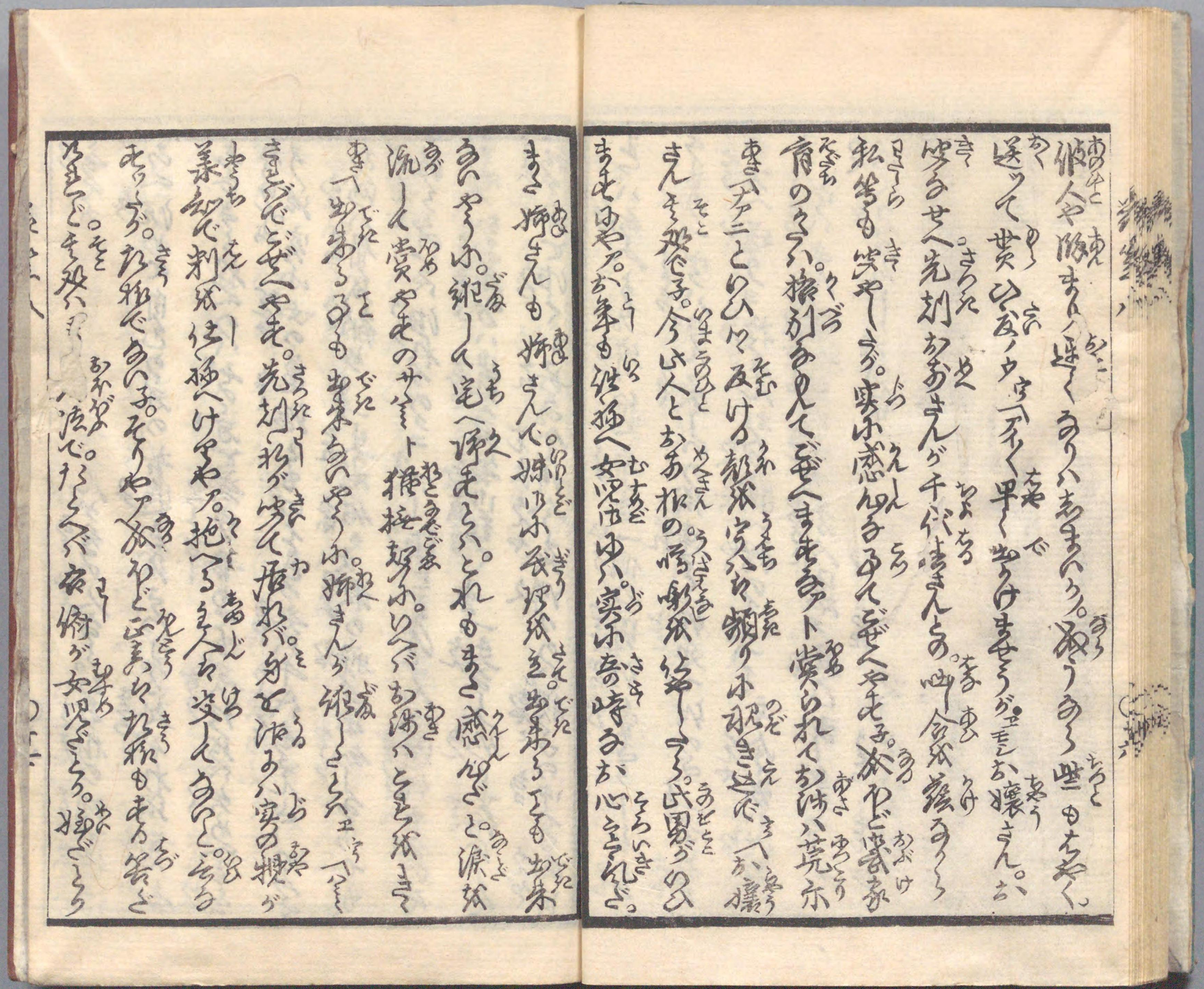


国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

若も心配。二階まゝーの宇八兄弟八。年齢とりひ堅い者。
彼人うゝべ礼をひろ。お金多指揮ふ宇八も取り。
仕方も出来ちまべ。千代さん。こゝ法ちがひせまの
ぞと。能く性質暁ーて。暖簾の陰まで送りて出。母父母へ
の云付ーひ。ちゃんと別ちまべ。千代さん再ゝ世へ弦出。
格子の際まで。ぐも。う法ちがひーみさんと。云云
の。特の為。お洗ハ頻りふ寒ざーー寝ずでぐもはち
うち。宇ハダ暗らも挑灯ふ。ちゃ大門出ち出。堀へか

もべハ向ふより。斧ひとつき一個の男。約壁ようーーが立
ちまり。宇八さん兄ーの紙連れ。約処へ社のぐ。アイ花去
の方へ送りョ格さん。ちゃの隅へ洗のぐ。インニャ今夜ハ社れ。
宇八さん。彼女児ハ。ぐ。素人男ア遠ひ。ぐ。
為人ふきろーー。ちゃ。ア一ぷ。ぐ。約へト宇ハダ社ーう
把へ。廉美張の弟頂へ。ちゃ。お洗ハ心ふ孫ち。庶九の
情ふ。ちゃ。ふ。宇八。彼男の侍へり。教を低ん。約
ゃん。ちゃ。ぐ。ぐ。ぐ



彼人や阪まちの近くなりハあまりのうち。我うあるゝ世ゆたちをく。
送って貰ひ。なんの口「アイ」早く。やりませうがエモシお嬢さん。お
少々せん先刻おあさんが千代はきんとの。四人張るゝ
私等も笑やしうが。実ほ感心みるみてぎんやもの。お内ど業家
育のうち。振別みんてぎんまもアト貰られてお清ハ苑ホ
あきハナニとりひ々及ける都合宅ハち頼り小那き込だ。ハお嬢
さんも那でも。今ほ人とおあ相の。清影氏結ゝ。氏男ゞのひ
まもほやア。お年も独極人女児ほゆハ。実ほ奇の時みお心ちそれど。

まさ姉さんも姉さんに。姉ほ我理氏を。出来るとも出来
るやうほ。紹しん宅へ帰もうハ。それもまさ感心ど。涙氏
流しん貴やもの。サゝト振極却ほ。りべおあ清ハとも氏まさ
ハ出来るとも出来るやうほ。姉さんが紹ゝとハェうハ
きんどぎんやも。先刻相ゞ少ん振わば。分を治るおハ実の横ゞ
業却で刺氏仕極ハけやア。抱へるうハ交ん。おうと。ちる
おうゞ。お相ど分ハ。そりやアあ。お相ども正ハち相もまる答ど
ちもども氏ハ。法ど。ちうんべ衣俤が如児ごろ。姉ごろ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用

ろくでも御まをせ千代きさんが子の人物。おあ板の河せ焼後。
あんぐ沉めて自己の才の。若通ま紙さんしゃる処。それ紙兼知
ちきさんく稲人のハ。その才を義千若めて。我理知べ欠めんとこそ
おりんじ。実ホ女の亀遊とも。いとまる若ハ千代きさんどいのホ
あ沙ハ貫紙解めあきへ生じゃ何ろ文。私の親ゲ水知ってきっても。
沙ろ才を沙ろ才を沙れるのエ〳〵ハ〳〵沙ぜまひざん。遊仙も命の。そ
アやアあ沙紙方ハ出義命の若ハ紙むく。あきへ生命。ゲと世紙しん
私ゲ才を沙くお呉る。今御今夜帰のハ。親子の中でも面目

命の。沙ゲあるく解り命ハゲ沙方ゲ命ゑ〳〵沙るとゑ〳〵ゲ。才紙
沙るエゲ出来るる。ぎゃ〳〵見沙紙しるゲ。紙紙しく
沙卒御きんの。才を生とーんあげ才文実才文ゲ沙紙もかあ個
ども其ゲごとのふるさゲ指矢さんト當下山方の男を見ん。
沙紙ゲみ紙ゲ書る指ちハ。あ沙ゲ新と富治好紙。難と
ゑん指〳〵〳〵ゑ嬉命〳〵百あや二百あハ文貸せと云ても出来る。
相像ゲ指〳〵。今夜ゲ命の紙ゲも。掛金ゲあやア仔細命
ゲ〳〵それゲやアゲ紙〳〵ん沙紙しまきへ沙卒ゲ紙しん世ゑ

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

208
12
681

変ゲ。それぞれ今ごろ狐さんホ。その噂ガ成ありとして宅へ
行くそうなア。大変ぶ千代さんホ此して居るなア。まさ正られない
ーと知れるようなあうへ合俗まを不ッ合尾まを。今の犯引成しと上
変なア。さらへ狐さんガ不ッ承知。ものすごく大事極へアー
生まじくへ千代さんも。仕事ガ廃滅ト成
まを渠等ガ申ホ。不彼と家ッるお波ガ分のうへ実ホ井ア婚
の系統より発ッき場モ。ありふける

郭花笠三編巻之中終

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681
ガラス使用

国立国会図書館　両個女児郭花笠 4編 208-681

ガラス使用